

# 「オンライン・ウェディング」の可能性 1

## ——「オンライン・ウェディング」 実現に向けての一考察——

### The possibility of “On Line Wedding”

—— A Study of Actualization of “On Line Wedding” ——

齊藤 彰

SAITO Akira

**Abstract:** Communication methods and communication tools have moved, during this 20 years. We made contact with friends by phone and Email 10 years ago. But recently, we usually contact with families and friends by SNS, for example, LINE, Instagram, and Facebook. Not only taking pictures but also payment becomes available for smartphones. This report describes SNS, especially “LINE”, and considers possibility of “On Line Wedding”, as a new idea and a tool of wedding system.

**キーワード:** ブライダル、ウェディング、婚礼、ソーシャルネットワークサービス、Bridal, Wedding, Nuptials, Marriage, SNS, Social networking service

#### 1. はじめに

コミュニケーションの形態にソーシャル・ネット・ワークサービス（以下SNS）が用いられるようになってどのくらい経過するか。SNS（social networking service）とは、「インターネット上の会員制サービス的一种。友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や、新たな人間関係を構築するための場を提供する。」<sup>1</sup>と説明している。SNSが連絡手段となる以前は、通話やインターネットメールが主流であり、SNSに移行してきたのも近年である。ちなみに

「LINE」のサービスは2011年6月に開始された。総務省の通信利用動向調査<sup>2</sup>によると、2017年には固定電話やパソコンの世帯保有数をスマートフォンが上回り、個人のスマートフォン普及率が60.9%、モバイル端末全体（携帯電話・PHS及びスマートフォン）の保有率は84.0%である。2019年4月に「LINE」の月間アクティブユーザー数が8,000万人以上<sup>3</sup>であることを考えると、現在では日本でスマートフォンを所有している人のほとんどがLINEを使っているといっても過言ではない。特に2017年頃より支払い機能やショッピング、ギフト、旅行検索などサービス内容も多岐に渡っている。本ノートでは、今後のアクティブ・ラーニング形式の授業に向けて、この「LINE」を中心にSNSに焦点を当て、ひとつのケースとして婚礼の新商品「On Line Wedding」の可能性を考えてみたい。

## 2. SNSの普及と「LINE」のサービス内容

最近では就職活動においてもメールを使わなくなったため、件名や本文の書き方に指導の必要な学生が多い。また、企業からの連絡も「LINE」から来ることも多くなり、学生から気軽に返信を行なっているのが現状のようだ。このようにSNSの普及により、知人や友人、家族との連絡手段も変わった。大きな変化が見られるようになったのは、東日本大震災の前後だ。固定電話、携帯電話とEメールが繋がりにくいことからTwitterやFacebookなどのSNSを連絡手段として利用する傾向が見られるようになり、2011年6月「LINE」の提供開始と共に移行が始まった。「LINE」提供開始時のプレスリリース<sup>4</sup>を見てみると、

LINEはデバイス（スマートフォン／携帯電話）や通信キャリア（NTTドコモ／au／ソフトバンク）の垣根を越えて、友人や同僚・家族などと1対1の会話はもちろん、グループで同時にチャット形式のコミュニケーションを楽しむことができるサービスです。

近年、Twitter・Facebookを始めとする、公開型もしくは準公開型のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）利用者数が急速に拡大の一途を辿っています。

一般的に、SNSは不特定多数のユーザー間での気軽な情報交換・交流を目的としたコミュニケーションには便利である反面、実世界で面識が無い人やビジネス上での知り合い・取引先など、SNS上で繋がる交友関係が多岐に渡るケースが多く、身近な

友人や家族間におけるプライベートなコミュニケーションツールとしては必ずしも利便性が高いとは言えないのが実情です。

LINEでは、最もプライバシー性の高い「電話番号」を登録キーとすることにより、スマートフォン／携帯電話のアドレス帳に登録されている親しい友人や同僚・家族などと、いつでもどこでも気軽に、コミュニケーションを楽しむことができます。NAVERでは本サービスを通じて年内100万ユーザー達成を目指します。

とある。その概要は、

#### LINE（ライン）概要

■名称：LINE（ライン）

■主な特徴：

(1) 簡単

スマートフォン／携帯電話のアドレス帳を自動で読み込み、LINEの友だちリストに登録されます。メールアドレスを知らなくても簡単にメッセージを送ることができます。

(2) 安心

会話は、会話の相手もしくはグループの仲間にしかな通知されないため、安心して会話を楽しむことができます。

(3) 全機種、全キャリア対応

スマートフォンはもちろん、携帯電話（※）、全てのキャリアに対応しているため、誰でも気軽にコミュニケーションを楽しむことができます。

※携帯電話からの利用は、iPhone/Androidアプリを利用している知人から招待メールを受信の上、チャット専用URLにアクセスしてご利用いただく形式となります。

(4) グループコミュニケーション

1グループ当たり最大100人まで登録可能（1人当たりの参加グループ数は無制限）。テキストだけでなく画像や位置情報を送ることができるため、友達との待ち合わせの連絡やイベント写真の共有にも最適です。

(5) リアルタイム

メッセージを送付すると即座にプッシュ形式で相手に通知され、リアルタイムに会話を楽

しむことができます。もちろん後でまとめてメッセージを確認することも可能です。

■利用料：無料

■対応言語：日本語・英語

当初年間で100万ユーザーを目標としていた「LINE」は、提供開始後2ヶ月で50万ダウンロード、3ヶ月で早くも100万ダウンロードを達成し、半年で1000万ダウンロードを超えた。当初の機能に国内外の無料通話、無料のスタンプが加わったこともヒットの要因である。さらに会話機能だけでなく、現在ではお財布機能として支払いや電子マネーにも利用でき、関連サービスもバラエティに富んでいる。アプリ上で閲覧できるだけでも、LINEショッピング、LINEギフト、LINEトラベル、LINEバイト、LINEキャリア、LINEデリマ（出前・注文）、LINEポケオ（テイクアウトの注文）、LINEゲーム、LINEマンガ、LINE MUSIC、LINEチケット、占い、LINEなどである。既存のショッピングや検索アプリと競争しながらも、全て「LINE」内で完結できるというメリットで高成長している。では、ウェディング・ブライダル関連でも、会場や結婚情報誌や結婚紹介所のサイト、衣装や装飾などそれぞれの職種で運営するサイト<sup>5</sup>が見られる中、「LINE」にWeddingの要素を加えた場合、どのような活用ができるであろう。

### 3. 「オンライン・ウェディング」

「オンライン・ウェディング」では2つの可能性を示す。1つは新規接客にあたるブライダル・コーディネーターの業務に関するもの。ブライダル・コーディネーターの業務は多岐にわたる。新規のお客様の接客から、仮予約、成約、そして打ち合わせと当日までの手配。分担制<sup>6</sup>で新規と打ち合わせを分けて進める会場もあるが、それでも館内案内や新規の接客の時間を掛け、成約に結びつかないとすると、その時間を短縮したくもなる。人件費だけでなく効率的な業務の遂行も可能となるだろう。「LINEトラベル」や「LINEバイト」のように会場検索機能に期待したい。こちらに関しては、次回「オンライン・ウェディング」の可能性2で述べることとする。

もう1つの可能性は、ゲストが利用する演出や進行での可能性である。主役である新郎新婦はホスト、招待される方々がゲストという狭義の捉え方もあるが、今回は来館される方全員をゲス

トとして、それぞれの立場での利用を考えたい。

### 3.1 連絡・会話機能

「LINE」では、スマートフォン・携帯電話のアドレス帳に登録されている親しい友人や同僚、家族などといつでもどこでもコミュニケーションを楽しめるようにと電話番号を登録してある知人が自動で「友だち」<sup>7</sup>に登録される。また、グループを作って限定した複数人でコミュニケーションを取ることができる。この機能を使い、または新しく招待状作成機能を追加・発展させることで、印刷物としての招待状、席次表を省略することができるのではないかな。

#### 【新郎新婦のメリット】

- \* 送るだけでなく、「既読」、「未読」の確認が可能。
- \* 肩書き、あだ名などを入力することで、自動的に席次表を作成できる。
- \* 出席確認が簡単である。  
(出席者名簿の作成をシステムに加えられるとさらに効果が上がる。)
- \* ペーパーアイテムを削減し、費用を抑えることができる。

#### 【招待客のメリット】

- \* 「LINE」のアイコンをアプリ上の席次表に用いることで、出席者の肩書き、主役との関係などが詳細にわかりやすくなる。
- \* 返信ハガキのマナーや投函などの面倒から解放される。
- \* 日時・会場などの情報を普段からスマートフォンに携帯できる。
- \* 参加者グループがあれば、誰が参加するのか把握できる。

### 3.2 ブログ機能

「LINE」には、会話機能だけでなく「タイムライン」画面で現在進行形の情報を公開できる。また、グループ間でのコミュニケーションにも活用できるため、結婚式参加者内での会話が可能となる。

#### 【新郎新婦のメリット】

- \* 打ち合わせや準備の状況、当日までの2人の生活を招待客に公開できる。
- \* 当日の料飲メニューを事前にお知らせできる。

\*追加でのメッセージ、現在のゲストへのコメント、気持ちを伝えることができる。

【招待客のメリット】

\*新郎新婦や参加者のブログを遡って検索することも可能。相手のプロフィールを自然な形で知ることができる。

\*新郎新婦を除いたグループでの会話も可能。2人へのサプライズなどを参加者全員の協力のもと準備できる。

### 3.3 お財布機能

2018年11月27日、「LINE」とみずほフィナンシャルグループが新たに「LINE Bank」を設立すると発表。支払いだけでなく、投資や保険サービスにも参入するようだ。すでに「LINE Pay」が利用可能だが、結婚式においても支払いが電子マネーになることで、会場受付の様子も変化するだろう。直接のやりとりがなくなることを寂しく感じる人もいるかもしれないが、受付に両親、主役はいない。より簡潔にすることで新しい演出や時間が生まれるかもしれない。

【新郎新婦のメリット】

\*当日は電子マネーでの受付対応を可能にすることで、受付での現金のやり取りがなくなり、ご祝儀の管理が安心。

\*ご祝儀受け取り時に、参加者の確認が容易。

\*ご祝儀受け取り時に、ゲストにメッセージを配信可能。

\*同時に写真撮影を行えば、出席管理だけでなく、式の中でもリアルタイムでスマートフォン上の席次表に顔写真を反映させるなど、写真を使用した演出が可能。

【招待客のメリット】

\*新札の用意、ご祝儀袋（ペーパーアイテム）の準備などを省略できる。

\*受付担当者の負担が軽減される。

\*参加者のプロフィールがリアルタイムで更新されるので、より会話がしやすい。

\*顔認証機能と支払い機能が進化すれば、顔認証だけで受付を済ませることが可能になる。

### 3.4 ギフト機能

当日の演出や準備にも忙しい中、引き出物をゲストごとに選ぶのはなかなかの負担。最近ではカタログでの引き出物も多く見られるが、注文後は不要となるペーパーアイテムはできる限り削

減したい。新郎新婦の好きなミュージシャンのライブチケットを配信するなど、結婚式の後にも同じ感動を共有するアイテムを送ることができる。「LINE」の関連サービス全てで利用できるのであれば、可能性は広がる。

【新郎新婦のメリット】

- \*引き出物を現品でもカタログの持ち帰りでもなく、上限金額を設定した「LINEギフト」を利用することで、手配・準備が簡単になる。
- \*手配数を間違えた場合にも、簡単に変更が可能。
- \*引き出物の手配時に、ポイントの利用やポイントを稼ぐことが可能。
- \*ゲストの選んだ引き出物の追跡が簡単。

【招待客のメリット】

- \*二次会参加が多くなった最近では、荷物の持ち帰りがなくて負担が減る。
- \*日常的なものも含め、カタログよりも自分の好みに合ったものをリクエストできる。
- \*引き出物がポイントであれば、ショッピングサイトの利用も可能、旅行やスタンプ、アプリの購入が可能。

### 3.5 アルバム機能

もともとSNSが写真や想いを配信し共有するものであることから、特に目新しいものではないが、エンドロールやプロカメラマンの写真も共有することで、利便性が高まる。

【新郎新婦のメリット】

- \*挙式・披露宴の写真を簡単に共有できる。
- \*結婚式後の連絡が取りやすく、お礼状（ペーパーアイテム）などを省略できる。

【招待客のメリット】

- \*結婚式後でも2人の様子を追うことができる。
- \*挙式・披露宴の写真を簡単に共有できる。
- \*写真へのタグづけにより、後々参加者が誰であったか確認できる。

### 3.6 ミュージック機能

披露宴会場で取り扱いの難しいものの1つとして、ブライダル演出用の音楽（BGM）がある。

使用する楽曲、記録に音楽を有する場合の著作権・著作隣接権など、2019年10月から新しく適用される規約を理解して使用する必要もある。音楽でSNSを使用する際には特に注意が必要であろう。

【新郎新婦のメリット】

- \* 著作権・著作隣接権の問題をクリアすれば、音楽の編集などが容易になる。
- \* 当日使用したBGMをゲストに配信することができる。

【招待客のメリット】

- \* 音楽リストを手に入れば、気に入ったBGMを結婚式の後に検索しやすい。

#### 4. おわりに

短期大学の授業で、数日間のニュースを披露する機会がある。しかしながら、学生の7～8割がテレビを見ていない。SNSでもニュースよりはYouTubeなどで好きな芸人を追っている。テレビよりネット利用の多い10代から30代。結婚適齢期とされる30代だけでもテレビとネットが半々のようだ。数年後にはテレビよりネットの利用率が多い世代が徐々に結婚適齢期になる。

「Instagram（インスタグラム）」や「Facebook（フェイスブック）」で情報を収集して、食事や旅行の計画を立てている世代だ。今後ますますSNSでリアルな情報を求める若者が増えることだろう。

2020年には次世代通信規格5Gの導入が検討されている。5Gの通信速度は、現行の4Gの約100倍となる。同時に複数の端末を接続できるようになり、Wi-Fiと同じ速度を確保できるのであればWi-Fi自体が必要なくなり、システムや生活環境は大きく変化するかもしれない。

今回、SNSを利用したWeddingを特にゲストの利用を中心に、「LINE」機能を使って考えてみた。1吹き出し500文字という文字制限の中、まだまだ連絡ツールとしての利用や認識の多い「LINE」であるが、続けて、ブライダル・コーディネーターの立場から、挙式披露宴の仮予約、申し込み、手配を簡略化する仕組みを考えてみたい。



## 注

1. 広辞苑「SNS」
2. 総務省『通信利用動向調査』,  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252110.html>  
2018年12月.
3. LINE株式会社「決算説明会」2019年12月期第一四半期 資料  
[https://scdn.line-apps.com/stf/linecorp/ja/ir/all/FY19Q1\\_earnings\\_release\\_JP.pdf](https://scdn.line-apps.com/stf/linecorp/ja/ir/all/FY19Q1_earnings_release_JP.pdf)  
2019年4月
4. LINE 開業時プレスリリース  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000117.000001594.html>  
2011年6月
5. 「みんなのウェディング」、「hana-yume (すぐ婚navi)」、「マイナビウェディング」、「ゼクシィnet」、「ウェディングパーク」、その他婚礼アプリなど
6. 分担制とは、新規接客と打ち合わせを分担して別の担当者が行う制度。一貫して行う場合を担当制という。
7. 「LINE」で連絡の取れる人、またはその連絡先一覧

## 参考文献

- 『ブライダルコーディネーター テキスト スタンダード』公益社団法人日本ブライダル文化振興協会, 2018
- 総務省『通信利用動向調査』,  
<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/html/nd252110.html>  
2019年5月.
- LINE株式会社「決算説明会」2019年12月期第一四半期 資料  
[https://scdn.line-apps.com/stf/linecorp/ja/ir/all/FY19Q1\\_earnings\\_release\\_JP.pdf](https://scdn.line-apps.com/stf/linecorp/ja/ir/all/FY19Q1_earnings_release_JP.pdf)  
2019年6月
- LINE 開業時プレスリリース  
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000117.000001594.html>  
2019年5月